

2025 年度 事業計画書



新生児蘇生法に取り組むスタッフ
(ママ・ナ・ムトプロジェクト タンザニア)

目次

1. 新年度の抱負	1
2. 中期計画における位置づけ	2
3. 海外諸活動	2
[3-1] 海外派遣	2
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）	2
(2) タンザニア 城田ふみワーカー（医師）	4
(3) 短期ワーカー	4
[3-2] 奨学金事業	4
[3-3] 協働プロジェクト	10
(1) 第二期シロアムプロジェクト	10
(2) HOPE（若年妊娠予防に向けた健康教育）プロジェクト	10
(3) カリブムトトプロジェクト	11
[3-4] 災害救援復興支援	12
4. 国内諸活動	12
[4-1] 国際保健人材育成	12
[4-2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動	12
[4-3] マーケティング	14
5. 運営体制	16
[5-1] 定時社員総会	16
[5-2] 理事会	16
[5-3] 委員会	16
[5-4] 事務局	17
[5-5] 公益法人制度改正・新公益法人会計基準への対応	17

1. 新年度の抱負

仕えるものとして歩む

会長 畑野研太郎

2025年は、昭和100年とか戦後80年にあたると言われています。こうした年は、記念日としたり、過去を振り返ったりするきっかけとして使われることが多いようです。昭和100年というと、どうしても大正デモクラシーがなし崩しにされて軍国主義国家になっていった最初の20年間のことに思いをはせてしまいます。反対に、戦後80年というと、この間、平和憲法を掲げて経済的な復興を成し遂げてきた前半と、経済成長が高原化した後半とを思いますが、しかしこの80年間に、日本はよくも戦争をせずに過ごしてきたものだと感じます。明治維新（1868年）からの80年間に、日本は大きな戦争だけに限っても4度も戦争しているのですから。

この文章を書いている今日は、アメリカ大統領の就任式がおこなわれている日です。（実際に皆様に読んでいただくより5カ月も前になります）。その壇上に並んだ人々を見ると、なんと錚々たる顔ぶれでしょう。この世の成功者たち、主に経済活動の世界での勝利者たちです。はて？

この壇上の人々に限らず、戦争を開始できる権力を持つ人たち、弱者を放逐し奴隷とする力を持つ人たち、国際機関の決定を反古にする力を持つ人たち、こうした成功者・勝者が世界を動かしているように見えます。

しかし、イエス様はどう教えておられるでしょうか。「あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。」（マタイによる福音書23章11節）。この同じ表現が、福音書の中に5回も出てきます。福音書をつうじてイエス様の命令は一貫しています。

JOCSは、今年も平和を築くものであり続けます。今年には新しいワーカーが出発してくださるでしょう。奨学金によって、現地で育つ草の根の人びとに仕える仲間も増やされるでしょう。現地で働く人々と共に、協働プロジェクトも続けられるでしょう。

私たちは、この世の成功者になる道ではなく、イエスの指し示された仕える者となって神の国で一番偉いものを目指す競争を、今年も戦い続けるでしょう。なぜなら世界には、一人しか勝者のいない競争ではなく、皆が勝者となれる仕える競争を、共に戦っている兄弟姉妹がたくさんにおられるからです。

2. 中期計画における位置づけ

2025年度は中期計画「5カ年計画2023」の3年目となる。「御心により造り変えられ、呼び声に応える器となる」というビジョンに従い活動を進める。この5カ年計画では、最初の2年間で「JOCSの変わらないミッションを再認識し、時代や地域の変化にあったJOCSの組織や活動の変革を検討する」とうたわれており、2024年度に第6回JOCS海外保健医療協力者会議を開催したことでその作業は完了した。2025年度からは、その会議の結果に基づきJOCSの組織と活動の変革を開始する。

海外諸活動においては、奨学金事業については支援を継続実施する。協働プロジェクトは、既存プロジェクトの継続、タンザニアでの新規プロジェクトの開始、そしてミャンマーでの新規プロジェクト形成の作業を進める。海外派遣については各国の支援ニーズを調査し、新たな派遣希望者の発掘を引き続き進める。

国内諸活動においては、オンラインによる活動と、対面での活動を併用していく。オンラインコミュニケーションツールの効果的な活用も引き続き目指していく。

3. 海外諸活動

海外派遣事業では岩本直美ワーカーのバングラデシュ派遣を継続し、帰国報告会を実施する。また、城田ふみワーカーをタンザニアに派遣し、新たな活動を開始する。協働プロジェクトでは短期専門家の派遣を検討するとともに、新規の協働プロジェクト形成のための調査を進める。奨学金事業と協働プロジェクトでは引き続き各国ごとの最新の状況を把握して事業を効果的に展開する。

[3-1] 海外派遣

バングラデシュでは、引き続き岩本直美ワーカーをPIMEの実施するJOYJOYプロジェクトへの協力のために派遣する。タンザニアには城田ふみワーカーを派遣する予定である。

(1)バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）

派遣先：PIME（Pontificio Istituto Missioni Estere：ミラノ外国宣教会）

派遣期間：2022年7月～2025年12月

活動概要：PIMEが実施する「JOYJOYプロジェクト」（現地の知的な障がいのある子どもとその家族を支援するプロジェクト）への協力

1) 組織管理と運営

①新しい事業場所での適応

JOYJOYの事業場所が女児寄宿舍内から男児寄宿舍の建物内へと2024年3月に移転したことを受け、JOYJOYに連なる子どもたちの安全と適応を最優先し、家族やスタッフも快適に利用できるような環境を整備する。

②JOYJOY委員会

JOYJOY委員会を12月までに2度開催する。委員会の役割と機能を見直す。

③人事関連

渉外スタッフを1名新規採用し、デイケアスタッフを2名増員する。

④デイケア

子どもの受け入れ人数を平均25名とする。

⑤スタッフ関連

オーストラリアより知的障がい児教育専門家カトリーンを6月に招き、短期トレーニングを実施する。山内章子理学療法士の訓練指導は、2025年度も継続する。JOYJOYに短期滞在できる言語療法士を国内外に求める。

2) JOYJOY事業の活動の実施

①デイケアの運営

活動内容がテーマ主導型となるよう配慮する。マカトンなどの導入を試み、子どもたちのコミュニケーション手段の向上を図る。個別目標の設定、実施、評価作業を丁寧実践しデイケアの質の向上を図る。家庭に留まっている青年期の障がいのあるメンバーたちの統合参加を図る。

*マカトン法 英国で開発された、サインと言葉を組み合わせて使うコミュニケーション方法

②家庭・地域訪問

訪問訓練の確実な実施を図り、家庭内でケアの怠慢や虐待を受けている子どもの支援を強化する。

③特別行事

年間計画に沿って、JOYJOYの文化祭やピクニックなどを実施する。

④医療および社会福祉支援

ディナジプール医科大学の小児精神科医の支援を得て、同医科大学の社会福祉サービスを家族が受給できるよう図る。医療、栄養、自助具などの支援を継続する。

⑤親の会

母親たちの会（月例）の世話役を刷新し、母親同士の横の繋がりがさらに強化されるよう内容の充実を図る。父親たちへはファンドレイズ支援の役割をさらに担ってもらえるよう、父親たちの会で働きかける。

⑥啓発活動とファンドレイズ

2024年度イスラム教断食月の期待できる喜捨寄付名簿を中心に、JOYJOYの個人

および企業支援者の増加を図る。

3) 日本での報告会

2022年7月から2025年12月までの活動に関する報告会を、2026年1月から3月に実施予定。

(2) タンザニア 城田ふみワーカー（医師）

派遣先：TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所)

St. Ann's Mission Hospital (聖アンナ・ミッション病院)

派遣期間：2025年10月～2028年9月

活動概要：協働プロジェクト「カリブムトプロジェクト」の活動

TAHOが実施するセミナーとスーパービジョンの支援

10月にタンザニアに渡航し、最初の1カ月はタボラ大司教区保健事務所（以下、TAHO）で、巡回指導およびセミナー開催の協力と、TAHO傘下の医療施設の現状把握とカリブムト（スワヒリ語で、カリブは「ようこそ」、ムトトは「子」の意）プロジェクトの1年目調査の進捗を確認する。

その後、ダルエスサラームで、3カ月間スワヒリ語の語学研修を受講する。2026年2月にタボラに戻り、聖アンナ・ミッション病院およびTAHOでの活動を開始する予定。

聖アンナ・ミッション病院では、カリブムトプロジェクトに新生児医療の専門家として加わり、現場指導を通して母子保健スタッフとともに、新生児ケアの質向上に取り組んでいく。

TAHOでは、セミナー開催と年4回実施される巡回指導に協力する。

(3) 短期ワーカー

2025年度は短期ワーカーの具体的な派遣予定はないが、常に要望調査をし、必要に応じて派遣を検討する。

[3-2] 奨学金事業

2024年度から継続して、インドネシア、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、ケニア、タンザニアの7カ国奨学生60名を支援する。2025年度募集では、国別支援方針に従い、各国の状況を踏まえ、協力団体のニーズを考慮して支援を進める。

(1) インドネシア

GKST、GMIM、ICAHS傘下の保健医療施設で働く職員12名を継続して支援する予定である。病院の認証取得に必要とされる人材育成の要請、特に専門医・専門看護師・助産師とその他の有資格者の育成に対して積極的に支援をする。

* GKST (Gereja Kristen Sulawesi Tengah：中部スラウェシキリスト教会)

- * GMIM (Gereja Masehi Indjili Minahas : ミナハサ福音教会地域保健サービス部)
- * ICAHS (Indonesia Christian Association of Health Service : インドネシア・キリスト教保健サービス協会)

(2)カンボジア

カトリックプノンペン司教区の CHCC に属する、バットアンバン州のヘルスセンター Welcome Shelter for the sick で働くボランティア 1 名の看護師資格の取得のための研修を支援する。

- * CCHS (Catholic Community Health Services : カトリックコミュニティ保健サービス)

(3)ネパール

HDCS、TLMN、UMNMDT とこれらの傘下の病院で働く保健医療従事者および職員 17 名を継続して支援する予定である。ネパール政府が規定する各職種の人員配置数を満たすため、各病院の人材育成のニーズに応じて、長期雇用が見込まれる病院職員の資格取得には積極的に支援をおこなう。

- * HDCS (Human Development and Community Services) ネパールにあるキリスト教系 NGO
- * TLMN (The Leprosy Mission Nepal) ネパールにあるハンセン病患者のために活動するキリスト教系 NGO
- * UMNMDT (United Mission to Nepal Medical and Development Trust : ネパール合同ミッション) キリスト教系国際 NGO。Okhaldhunga Community Hospital、United Mission Hospital Tansen を傘下にもつ。

(4)バングラデシュ

KHCP で働く 2 名を支援する予定である。奨学生は、仕事を続けながら 3 年間でパラメディック*の資格取得を目指す。2025 年度は、1 名の研修が終了予定である。KHCP では創立者の故ベーカー医師から技術を学んだ村人らが無資格のパラメディックとして医療サービスを担ってきた。ベーカー医師亡き後、医療技術の維持・向上に加え、団体存続のための有資格者が必要となっている。

- * KHCP (Kailakuri Health Care Project : カイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト)
- *パラメディック : 医師ではないが、農村地域において、複雑でなく、頻繁に起こる病気の診断と治療および、妊娠出産時のサポートをおこなう。

(5)ウガンダ

2025 年度は UPMB 傘下の医療施設に所属する 9 名と、SRD 傘下の医療施設に所属す

る 4 名を継続支援する。UPMB と SRD 共に、病院では基礎的な人材が揃いつつあり、専門医など高度な人材が求められている。一方、保健センターでは基礎的な人材の格上げが引き続き求められている。特に SRD では、政府から派遣されていた医療従事者の政府機関への引き戻しの問題と、職員の技術力不足のため持っている医療機材を十分に活用できないという課題があり、自前の人材育成を必要としている。

- * UPMB (Uganda Protestant Medical Bureau : ウガンダ・プロテスタント医療連盟)
ウガンダ聖公会、セブンスデー・アドベンチスト、ペンテコステ派の 3 教派が連携し、330 の医療施設を統括する全国規模のネットワーク組織
- * SRD (South Rwenzori Diocese : ウガンダ聖公会南ルウエンゾリ教区)

(6) ケニア

2025 年度は 1 名を継続支援する。療育サービス、社会的支援など包括的ケア事業の強化を目指し、シロアムの園の人材育成要請に応じる。

(7) タンザニア

TAHO 傘下の保健医療施設で働く職員 14 名を継続して支援する予定である。

傘下にある 10 の保健医療施設では保健医療従事者の不足が深刻で、政府が定めている各医療施設の医療従事者数を満たしていない。基本的な短期研修を受けただけで資格を持たずに働いているスタッフが多く、保健医療施設のニーズに沿って、医師補、正看護師・助産師、検査技師や薬剤師など基礎的な分野での研修志望が多い。

2025 年 4 月から TAHO と協働で実施する新生児ケアの質向上を目的とした活動「カリブムトプロジェクト」に関わることが期待できる職員の人材育成にも、ニーズに応じて積極的に支援する。

- * TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)

2025年度支援予定奨学生一覧

インドネシア (12名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
ボランティア	22	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2025年08月
ボランティア	23	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年07月～2025年07月
ボランティア	23	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2025年07月
医師	37	女	GMIM Kalooran Amurang Hospital	医学(小児科専門)	2022年02月～2025年12月
助産師	33	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2023年03月～2025年09月
医師	36	男	GKST Sinar Kasih Hospital	医学(内科専門)	2023年01月～2027年12月
専門看護師	41	男	ICAHS Mojowarno Hospital	看護学	2023年08月～2025年08月
医師	33	男	GMIM Kalooran Amurang Hospital	医学(眼科専門)	2024年01月～2026年01月
ボランティア	20	女	GKST Sinar Kasih Hospital	歯学	2023年08月～2028年07月
助産師	38	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2023年09月～2026年08月
看護師	47	女	ICAHS Reksa Waluya Hospital	看護学	2024年05月～2025年12月
ボランティア	19	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護麻酔学	2024年07月～2028年06月

カンボジア (1名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
ボランティア	21	女	AVPP Welcome Shelter for the sick	看護学	2024年05月～2026年12月

ネパール (17名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
臨床検査技師	33	男	HDSCS Namuna Community Hospital	臨床検査学	2022年09月～2026年08月
看護教師	47	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2024年04月～2026年09月
看護師	27	女	Okhaldhunga Community Hospital	助産学	2022年12月～2025年12月
医師	30	男	United Mission Hospital Tansen	医学(麻酔学専門)	2023年05月～2025年04月
医師	28	男	TLMN Anandaban Hospital	医学(整形外科・外傷外科学専門)	2023年04月～2026年04月

2025年度支援予定奨学生一覧

看護師	27	女	HDCS Namuna Community Hospital	看護学	2022年09月～2026年09月
補助看護助産師	26	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2023年11月～2025年10月
臨床工学技士	37	男	United Mission Hospital Tansen	臨床工学	2024年04月～2027年04月
医療事務スタッフ	23	女	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	理学療法学	2023年06月～2027年12月
看護師	30	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2025年02月～2027年02月
補助看護助産師	26	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2024年10月～2026年10月
看護教師	33	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2025年04月～2027年04月
補助看護助産師	37	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2024年09月～2027年09月
補助看護助産師	29	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2024年08月～2027年08月
医師	30	男	Okhaldhunga Community Hospital	医学 (一般外科専門)	2025年04月～2028年04月
臨床検査技師	34	女	TLMN Anandaban Hospital	生化学	2025年04月～2027年04月
看護師	31	女	TLMN Anandaban Hospital	看護学	2025年02月～2027年02月

バングラデシュ (2名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
パラメディック	37	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2023年01月～2025年12月
パラメディック	50	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2024年01月～2026年12月

ウガンダ (13名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
医療事務スタッフ	23	男	SRD Rwesande Health Center IV	医学	2023年01月～2027年04月
准看護師	27	女	UPMB Kumi Hospital	放射線学	2023年03月～2026年03月
准看護師	35	男	UPMB Kiwoko Hospital	栄養学	2023年08月～2025年08月
医師	32	男	UPMB Ruharo Mission Hospital	産婦人科学	2023年08月～2026年08月
臨床検査技師助手	33	女	SRD St.Paul's Hospital	歯科公衆衛生学	2024年08月～2027年07月
助産師	35	女	SRD Nyabugand Health Center III	画像診断	2024年08月～2028年08月
助産師	39	女	SRD Kagando Hospital	医学	2025年01月～2028年06月
准看護師	32	女	UPMB Diocese of Northern Uganda/ Wii Anaka Health Center II	看護学	2024年07月～2025年12月

2025年度支援予定奨学生一覧

准助産師	27	女	UPMB Ebenezer SDA Health Center III	助産学	2024年06月～2025年11月
准看護師	26	女	UPMB Kinkiizi Diocese / BURORA Health Center II	看護学	2024年07月～2025年12月
臨床検査技師助手	27	男	UPMB North Karamoja Diocese / KODO Health Centre III	臨床検査学	2024年08月～2027年07月
医師補	32	男	UPMB Kinkiizi Diocese / Nyakinoni Health Centre II	麻酔学	2024年06月～2026年05月
准看護師	32	女	UPMB Ruharo Mission Hospital	助産学	2024年06月～2025年11月

ケニア (1名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
カウンセラー	29	女	The Garden of Siloam	児童発達学	2024年08月～2026年07月

タンザニア (14名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
医療助手	34	女	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2020年11月～2025年11月
医師補	31	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2020年11月～2025年11月
医師補	29	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2021年10月～2026年09月
医師補	26	女	TAHO Fr.Bolle Memorial Health Center	医学	2022年10月～2027年10月
医療助手	33	男	TAHO Ndala Hospital	ソーシャルワーク	2022年10月～2025年10月
医療助手	29	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2022年10月～2025年06月
准看護助産師	34	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学(眼科)	2022年10月～2026年10月
医療事務スタッフ	36	女	TAHO St.Ann's Mission Hospital	薬学	2022年09月～2025年08月
医師補	28	男	TAHO Ussongo Health Center	医学	2023年10月～2028年10月
医療助手	29	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2023年10月～2026年10月
医師補	32	男	TAHO Rosemystica Dispensary	医学	2023年10月～2028年10月
医療助手	20	女	TAHO Ussongo Health Center	医学	2024年11月～2029年11月
薬局スタッフ	23	女	TAHO St. John Paul II Hospital	薬学	2024年10月～2028年10月
准看護師	34	男	TAHO Ndala Hospital	看護助産学	2024年10月～2025年10月

*職業欄の職務・職種は奨学金申請時のもの

[3 - 3] 協働プロジェクト

ケニアとウガンダ、タンザニアのプロジェクトを継続実施する。ケニアの第二期シロアムプロジェクトは3年目となる。ウガンダはHOPEプロジェクトの2年目を実施する。タンザニアはカリブムトプロジェクトを開始する。ミャンマーでは新規協働プロジェクトの形成調査を進める。

(1)第二期シロアムプロジェクト

対象国 : ケニア
活動地域 : キアンプ郡カブク村
プロジェクト期間 : 2023年4月1日～2028年3月31日(5年間)
協力団体 : シロアムの園
直接受益者 : シロアムの園に通う身体、知的、精神、行動などに障がいのある子どもたちおよびその家族、シロアムの園のスタッフ
間接受益者 : シロアムの園に通うことができていない障がい児やその家族、コミュニティの住民、その他の関係者(地域は限定されないが、特にシロアムの園がカバーするキアンプ郡内の地域)
プロジェクト目標 : シロアムの園において、療育サービス、社会的支援など包括的ケア事業が強化される。

2025年度は、作業療法士、歯科医を1名ずつ短期専門家として派遣し、シロアムの園スタッフの能力開発に取り組む。事務局スタッフによる協働プロジェクトのモニタリングも予定している。

(2)HOPE (Health education On Preventing Early pregnancy : 若年妊娠予防に向けた健康教育) プロジェクト

対象国 : ウガンダ
活動地域 : カセセ県
プロジェクト期間 : 2024年4月1日～2028年3月31日(4年間)
協力団体 : SRD (South Rwenzori Diocese : ウガンダ聖公会南ルウェンゾリ教区)
受益者 : SRDが運営する学校および子ども支援センターに通う生徒
プロジェクト目標 : SRDが運営する学校および子ども支援センターに通う生徒が若年妊娠のリスクから解放されるようエンパワメントされる。

SRDが運営する学校および子ども支援センターのうちの5施設を対象に、以下の活動をおこなう。また、2024年度に1)と2)の活動をおこなった8施設では、3)の活動の

一部を実施する。

- 1) 若年妊娠の現状を含み、性について生徒たちが置かれている現状を確認する。
- 2) 性について話し、学びあえる環境を整える。
 - ①若年妊娠予防のための健康教育の教材を作成し、全施設の生徒たちに配付する。
 - ②生徒たちとその保護者を対象に、若年妊娠のリスクに関する意識啓発集会を開催する。
 - ③各施設に True Love Waits Club (性について学び、若年妊娠を防ぐための活動を実施) を発足させる。
 - ④各施設の True Love Waits Club で活動するピア・カウンセラーを育成する。
 - ⑤各施設に True Love Waits Club の部室と“性に関する情報・教育・相談コーナー”を兼ねたスペースを設置する。
 - ⑥生徒たちとその保護者を対象に、若年妊娠に関する対話集会を開催する。
- 3) True Love Waits Club の活動として、再利用可能な生理用品を製作するとともに、製作された生理用品の一部を各施設に備品として設置する。

(3)カリブムトプロジェクト (スワヒリ語で、カリブは「ようこそ」、ムトトは「子」の意)

- 対象国 : タンザニア
活動地域 : タボラ州タボラ大司教区
プロジェクト期間 : 2025年4月～2029年3月 (4年間)
協力団体 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)
受益者 : TAHO とその傘下の 10 の保健医療施設 (病院や診療所など)
プロジェクト目標 : TAHO 傘下の保健医療施設において、質の高い新生児ケアを継続して提供することができる。

2025年3月で終了したママ・ナ・ムトトプロジェクトでは、分娩期および新生児ケアの改善に重点をおいた活動に取り組んできた。各施設の分娩に関連するデータから周産期死亡率の減少がみられたとはいえ、新生児期のケアにおいてはまだ改善の余地がある。タンザニア国家戦略においても新生児死亡率の減少は最優先課題とされており、母子保健サービスの改善においては、人材の能力開発による継続的な向上を重点に置いている。

カリブムトプロジェクトは、ママ・ナ・ムトトプロジェクトの活動の成果を受け継いで実施する。そして、その成果に加えて、2019年にタンザニア国が制定した「新生児ケアと新生児ケアユニット設立のガイドライン (以下、新生児ケアガイドライン)」の基準を満たす、質の高い新生児ケアを提供できる人材の育成や新生児ケアの体制整備を目指して活動を実施する。

ママ・ナ・ムトトプロジェクトで取り組んできた分娩期ケアは、出生直後の新生児に対する世界的に標準化された方法であり、新生児ケアの向上につながる。そのため2025年度は、まず分娩管理と新生児蘇生の成果を確認するモニタリングを実施し、適切な分娩期

のケアができる人材の育成を継続する。そして、新生児ケアガイドラインに定める基本的新生児ケアの実施状況、新生児ケアにかかる体制・サービスの現状調査を実施する予定である。

モニタリングおよび現状調査は、巡回指導（スーパービジョン）、セミナーの機会を活用して実施する。

具体的な活動内容およびスケジュールは、活動の進捗にあわせてTAHO、TAHO傘下の施設と協議の上、柔軟に調整する。

[3-4] 災害救援復興支援

パンデミックや自然災害等に対する支援要請が出てくる可能性に備えておく。そのためにも各国協力団体との関係維持と強化に努める。

4. 国内諸活動

オンラインが効果的である活動については、オンラインでの実施を継続する。対面での実施が必要もしくは効果的な活動は、対面で実施していく。会員増、支援者増につながる各種施策を企画実施する。使用済み切手運動については切手整理ボランティアの減少への対策を進めていく。教会訪問は、これまで訪問が難しかった、東京事務局からの遠隔地での実施を積極的に検討していく。

[4-1] 国際保健人材育成

保健医療分野の国際協力に興味があり、将来その分野で活躍を希望する人を、発掘し育成するために、各種人材育成活動をおこなう。国際保健医療勉強会は引き続きオンラインで実施する。スタディツアー実施の可能性についても検討する。

(1) 国際保健医療勉強会

国際保健医療協力活動に携わりたいことを希望する人を対象に、2025年度は4回の勉強会をオンラインで開催する。また従来どおり勉強会後に派遣希望者相談会をおこない、ワーカーの発掘・育成に努める。

[4-2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動

日本国内において、世界の困難な状況におかれた人々の状況の周知、及び国際協力活動に関する支援及び協働を育む機会の提供として、種々の活動をおこなう。対面での活動に加え、オンラインでの実施が効果的な活動はオンラインで実施する。

(1) 使用済み切手運動

2025年度も2024年度に引き続き、子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加できる国際協力活動として、より多くの人に参加してもらうため、広報活動をおこない、使用済み切手収集、ボランティア体験の機会を広げていく。また、使用済み切手収集に加え、書き損じハガキ、外国コインの収集もあわせておこなっていく。

2025年4月に開催される予定のスタンプショウ「STAMP-SHOW 2025」へ参加する（都立産業貿易センター台東館）。

(2) 講師派遣プログラム

学校、幼稚園、社会福祉協議会などに講師を派遣する。先方の要望をよく聞き取り、その内容を反映させたプログラムを準備する。毎年派遣の依頼を受けるところでは、前年度の講師派遣の記録を確認し、講話内容の重複を避ける。

保健医療系の学校等から、専門知識を要する講義などの依頼を受ける場合は、必要に応じて現・元ワーカーや理事に講師を依頼する。

(3) 事務局見学受入

学校、幼稚園、社会福祉協議会、地域や企業ボランティアグループなどの希望に応じ、アジア・アフリカの保健医療事情やJOCSの保健医療協力活動、使用済み切手運動について学ぶ機会を提供する。

(4) 国際協力イベント参加

2025年度はグローバルフェスタ JAPAN への出展を予定している。掲示物等を工夫して人の集まるブースを目指し、JOCSの認知度を高める機会とする。

(5) ネットワーク活動

2025年度も「国際協力 NGO センター (JANIC)」「関西 NGO 協議会」「カンボジア市民フォーラム」のメンバーとして、情報交換や、一団体では実施困難な活動をおこなっていく。

JANIC のワーキンググループ「公益法人に関する NGO 連絡会」「組織マネジメント」「広報担当者グループ」への参加と、「NGO 非戦ネット」「『公正な医療アクセスを世界のすべての人に！』連絡会」の呼びかけ人としての活動も継続していく。

(6) 地区 JOCS オンライン全体ミーティング

地区 JOCS など日本各地にある JOCS 支援グループが参加するオンラインミーティングを1回開催する。活動状況の共有と、活動を活発におこなうための情報交換などをおこなう。

(7)地区ボランティア活動協力

日本各地でJOCSを支援するために自主的に活動している団体と協力し、JOCSの活動を広報する。それにより支援者を増やす。

(8)創立60周年記念事業

創立60周年記念事業の一環として2024年度に作成した活動紹介の映像を広報し、JOCSの活動の周知と支援者獲得につなげる。

[4-3] マーケティング

既存の支援者に支援を継続していただくため、会報誌や年次報告書で活動の進捗を伝える。また、新規支援者の獲得に向け、キリスト教書店での広報活動や教会訪問などの対面活動のほか、オンラインマーケティングなどの広報活動にも積極的に取り組む。また、会員の年会費の期間を事業年度ごとに変更する。

(1)会報誌『みんなで生きる』

支援者への説明責任を果たすとともに、活動への理解と共感を得るため、年6回（偶数月10日）発行する。

海外3事業（海外派遣、奨学金事業、協働プロジェクト）の活動報告では、海外の活動地の協力団体や関係する人々の声を多く掲載するように努める。そのほか、国内活動の案内・報告や、支援者の声も掲載する。

(2)年次報告書

6月にA4版の冊子形態で発行する。会員と、過去5年以内に寄付のあった支援者に会報誌・夏期募金趣意書を同封し郵送する。

現地の人々のストーリーを中心に掲載し、支援によって、どのような変化が生み出されたかを伝え、支援を継続してもらうことを目指す。また2024年のダイジェストとして、海外保健医療協力者会議の様子を掲載するほか、海外事業を支えるための国内活動の様子や、国内の支援者の声を掲載し、JOCSを身近に感じてもらえるような工夫をする。

(3)プレスリリース

株式会社PR TIMESの社会貢献活動である「非営利団体サポートプロジェクト」を活用し、JOCSの活動についてのプレスリリースを定期的におこなう。

(4)雑誌広告

キリスト教共感層に対してJOCSの認知度を上げ、活動を知ってもらい、新しい支援者を獲得するために、キリスト教雑誌『百万人の福音』等に1ページ広告を掲載する。JOCSの活動への共感を得られるようなストーリーを中心とした「読み物」の広告とし、海外の活動地の受益者の声などを中心に掲載する。

また、JOCS 支援者層と購読者層が重なると思われる婦人之友社発行の『婦人之友』誌に広告を掲載し、新たな支援者獲得をねらう。

(5)キリスト教書店での広報活動

いのちのことは社直営のキリスト教書店で、書籍購入者へのチラシ配布（東京、大阪、通販部）をおこなう。また、東京と大阪の店舗でストアイベントを開催する。

仙台市のキリスト教書店「エッセイの木」と、前橋市のキリスト教書店「前橋ハレルヤブックセンター」で、書籍購入者へのチラシ配布をおこなう。

また、日本各地のキリスト教書店に、チラシ配布や店頭での活動紹介イベントをおこなえるよう働きかける。

これらの活動により、キリスト教共感層にアプローチし、JOCS の認知度を上げ、新規支援者獲得を目指す。

(6)教会チラシ配布による広報活動

手軽に参加しやすい「リサイクル募金」を、教会へのチラシ配布を通して広報することで、JOCS への支援を始める第一歩としていただけるようにする。

(7)教会訪問

2024 年度までは関東および静岡県教会に活動報告会開催を働きかけていたが、2025 年度は関西の教会にも案内していく。対面での活動報告会開催が可能な教会があれば、開催を依頼する。JOCS の活動内容を報告し、さらなる支援をお願いする。

(8)募金

夏期募金については、例年のように年次報告書を同封した募金趣意書を支援者に送付する。

冬期募金については、支援者と、直近の1年以内に初めて使用済み切手を寄付した人に募金趣意書を送付する。

募金趣意書は、寄付がどのように役立っているのか、また今後どのように使われるのかを支援者が具体的にイメージできるようなものとする。また、冬期募金は趣意書を単独で郵送するので、受け取った人が開けたくないような封筒を作成し使用する。

(9)遺贈マーケティング

遺贈・相続財産寄付パンフレットを改訂する。高齢層の読者が多い雑誌『明日の友』に遺贈に関する広告を掲載する。JOCS の活動の認知度を高めるとともに、遺贈パンフレットの請求数増加を目指す。支援者向けには、冬期募金趣意書、年次報告書で遺贈パンフレットを案内する。

(10) オンラインマーケティング

ワーカーと共に活動する現地の人々や奨学生の活躍などを、動画やニュースの掲載を通して、ホームページから新しい情報を常に届けられるようにする。海外事業担当と相談し年間のホームページ掲載計画を立て、適宜見直す。

潜在的支援者にリーチするため、InstagramやFacebook等、SNSの投稿に注力する。引き続き、Googleの非営利団体向け広告プログラムを活用し、海外事業の関連キーワードからのホームページへのアクセスを高める。

(11) 会員管理システムの整理

近年、サイバー攻撃などによるデータの流出や漏えいのリスクが高まってきているため、ネットワークシステムのセキュリティを強化する。特にJOCSの支援者に関する情報を保持する会員管理システムのアクセス権管理の見直しや、サーバーへの不正アクセスを防止するための対策を強化する。

5. 運営体制

2024年5月に公布された公益法人制度改正に対応した会計処理や役員選出をする準備を進める。関西事務局をおいている大阪聖パウロ教会の閉鎖・ビル解体にともない、関西事務局内の整理、関西での使用済み切手整理業務の体制整備などを進める。

[5-1] 定時社員総会

第64回定時社員総会を、2025年6月7日（土）に日本基督教団の会議室にて開催する。また、ウェブ会議システムによる傍聴も可能とする。

[5-2] 理事会

2025年度は年7回開催する予定である。今年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畑野研太郎（会長）、大友宣（常務理事）、植松功、小宅泰郎、杉村恵子、
中寫裕一、名取智子、東岡牧、平本実、森田隆

監事：榛木恵子、渡部芳彦

[5-3] 委員会

(1) 財務委員会

委員長：中寫裕一 副委員長：吉川彰

委員：大友宣、古中大輔、飯田多香子（事務局）、石金祐実（事務局）、小池宏美（事務局）

予算が適切に執行されているかどうかを確認していく。事業計画に変更があった場合は、

年度半ばに補正予算案を協議、調整して会長および常務理事に提出する。

年度末には、会計責任者が立案した予算案を協議、調整して、会長および常務理事に提出する。

委員会開催予定 第1回 2025年10月ころ 第2回 2026年2月ころ

(2)奨学金委員会

委員長：小宅泰郎 副委員長：柳澤理子

委員：霜越多麻美、細谷たき子、吉松昌司、滝澤さおり（事務局）、
竹内里佳（事務局）

奨学金事業の目的に則り、研修終了後にその地域に長くとどまり、住民の健康の維持、増進のために働きたいと願う人材であるか、研修内容が地域の保健医療事情の向上に資するものであるか、研修内容が地域の緊急性やニーズにあっているかなどを考慮し、2025年度奨学生の選考をおこなう。また、2026年度奨学生の募集に先立ち、奨学金事業の協力団体など奨学生選考の方針について協議をおこなう。

委員会開催予定 第1回 2025年8月ころ 第2回 2025年12月ころ

[5-4] 事務局

事務局長・海外事業部長 森田隆

事務局次長・管理部長 名取智子

マーケティング部長 高橋淳子

東京事務局 飯田多香子、石金祐実、小池宏美、滝澤さおり、竹内里佳、
村田素子、森田真実子

関西事務局 江川由美

[5-5] 公益法人制度改正・新公益法人会計基準への対応

2024年5月に「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」（以下、「認定法」という）の一部を改正する法律が公布された。2025年4月1日に新制度が施行される。公益法人会計基準についても見直しがおこなわれ、2025年4月1日から新会計基準の適用が開始される。

新制度では、公益法人の自立的ガバナンスの充実と透明性向上のため、外部理事および外部監事の選任が義務化された。JOCSにおいても、会員規程および役員選出規程の改定を進め、次期役員改選では外部理事および外部監事を選出するよう準備を進める。

改正法では、公益法人の責務として、ガバナンスの充実や透明性の向上を図るよう努めるべき旨が規定された。各法人が自発的におこなったガバナンスに関する取り組みについては、内閣府に提出する毎年度の事業報告書に記載し、公表されることとなった。JOCSでもガバナンスの一層の充実を責務として、理事会で対応していく。

新会計基準では、従来の正味財産増減計算書から活動計算書への変更、区分経理の義務化等、財務報告を、広く資源提供者その他のステークホルダーに対する情報開示を目的と

するものへ再編成される。公益法人特有の会計処理が見直され、財務諸表の様式が大幅に変わることから、3年間の経過措置が設けられている。JOCSでは2026年度から新会計基準を適用すべく、準備を進める。